

# 湯沢砂防女性モニターレポート第3号

平成 17 年 10 月 18 日

発行 湯沢砂防事務所

<http://www.hrr.mlit.go.jp/yuzawa/>

湯沢砂防事務所は、女性モニターの皆さんと一緒に、より良い砂防について考えています。  
去る 9 月 12 日、中越地震により被災した砂防施設（福山川第 3 号砂防堰堤）と、手掘りトンネル（中山隧道）を見学し、その後、破間川出張所にて意見交換会を行いました。

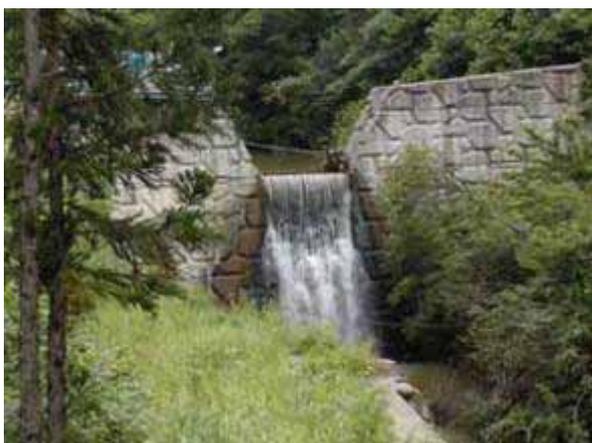
## <位置図>



## プログラム \*\*\*\*\*

- 11:30 湯沢砂防事務所出発
- 12:40 破間川出張所着、見学地へ出発
- 13:20 福山川第 3 号砂防堰堤着、見学
- 14:20 中山隧道着、見学
- 14:40 中山隧道出発
- 15:00 破間川出張所着、意見交換会  
・現地見学の感想  
・親子イベントについて  
・その他
- 16:00頃 終了、破間川出張所出発
- 17:00頃 湯沢砂防事務所着、解散

\*\*\*\*\*



福山川第 3 号砂防堰堤

## 福山川第 3 号砂防堰堤 (日本初ゲート式砂防堰堤)

福山川第 3 号砂防堰堤は魚野川の支流和田川にあり、魚沼市（旧守門村）に位置します。この辺りは第三紀層と呼ばれる脆弱な地質で構成されているため、出水のたびに侵食され、岩屑が絶えず下流へ流されています。福山川は、数十年に一度という間隔で大きな土砂災害が発生する河川であったため、平常時に流れてくる少量の土砂は貯留せず下流へ流し、下流河床の低下防止を行う必要がありました。しかし、通常のクローズタイプの砂防堰堤では細流木により暗渠が閉塞する可能性があり、また、オープンタイプは下流にある保全対象の安全面から適用できませんでした。そこで、

これらの問題を一挙に解決する新しいタイプの砂防堰堤として、高機能なゲート式が採用されました。福山川第 3 号砂防堰堤は、日本で最初に施行されたゲート式砂防堰堤であり、年に一度ゲートを開け排砂を行っていました。

ところが、昨年の中越地震によって福山川第 3 号砂防堰堤のゲート開閉機や観測施設が被害を受け、ゲート操作ができなくなりました。今回、施設の復旧作業に入る前に、モニターの方に被害の様子を見学して頂きました。



地震によって被害を受けた観測・通信施設を見学



砂防堰堤の天端からゲート部を見るモニターの皆さん。手前の機械がゲート操作部

### \*\* 女性モニターより \*\*

- ・ 砂防堰堤に行くまでの道のあちこちが地震のため土砂崩れになっているのを見て驚いたが、地震でゲート式の設備が壊れ、太いナットをもはずし、位置を変えてしまった事に今更ながら地震の規模の大きさを実感した。
- ・ 今まで沢山の堰堤を見学させていただきましたが、くり返し（結果は同じでも）利用できるとの説明が注目出来る堰堤につながりました。出来るだけ早い時期に修復しゲートからの放流を見たく思います。
- ・ 貯砂容量が建設当時に近い形で確保されているとのこと。これでランニングコストが低く抑えられたら、なおいいと思った。復旧したらもう一度見学したい。
- ・ ゲートが開いているのを見たかった。日本でここしかないということだったので興味深かった。倒れそうな電柱や地割れ、崩れた土砂がなまなましかった。
- ・ 山や田んぼの景色はきれいでも生活するための根元のささえは、大変な努力の上で成り立っているのだとつくづく思いました。



福山川第3号砂防堰堤の資料を熱心に読まれています。



施設へ向かう道の途中で土砂崩れがありました。

## 中山隧道



中山隧道坑口の様子（魚沼市側）

中山隧道は、旧古志郡山古志村から旧北魚沼郡広神村を結ぶ地元住民手掘りのトンネルです。トンネルがなかった昭和初期、用事がある時や病人が出た時は険しい中山峠を片道2時間近くかけて越え、吹雪の時には死者も出たと言われています。そこで住民たちは、自らの手で隧道を掘ることを決意しました。隧道掘りは16年間にも及び、昭和24年に完成しました。約900mを人の力だけで掘り抜いた中山隧道は、新トンネル(中山トンネル)ができるまでの49年間、住民の暮らしを支える道として活躍しました。

隧道掘りを始めた当初は、住民たちが資金を出し合って工事を進めていましたが、しだいに村や県が予算を組むようになり、工事が本格的に進められました。中山隧道は公共事業の原点ともいえます。



トンネル内からの冷たい空気に驚きながらも  
中へ入っていく女性モニター



中山隧道坑内の様子

### \*\*女性モニターより\*\*

- ・ 16年かけた手掘りのすごさに感動した。映画で見たのを実際に見て、本当だ、本当にツルハシにやっただと思える造り、残しておくべきもの。
- ・ 先人の努力はすごい。人の命の尊さや、助け合い、苦勞。便利すぎる時代の今、わがままして申し訳ない。
- ・ 中に入って見て改めて、あの高さ、中、長さを掘り続けた人々の執念とこだわりで深く感服すると同時に小松倉の皆さんは末代までの財産として誇れる事だろう。私達も残せるものを考えられないものだろうか。
- ・ 不自由な生活から解放されたいと願い、気の遠くなるような作業を執行した先人に頭が下がる。是非とも後世に語り継ぎ多くの人に見学してもらいたいと思った。「公共事業の原点である」という話も広くPRしてもらいたいと思う。

## 意見交換会

### 今回の見学地について

#### \*\*女性モニターより\*\*

- ・ 今回の見学地でも震源に近くなる程、ひどい状況で、改めて早い復旧、復興が望まれるが、同時に地元の人々と自分を重ね合わせてみると、今の私はこの人々のがんばりについて行けないと感じた。震災への感覚と希薄もすべて考えさせられた一日だった。
- ・ 人間は良くも悪くも苦勞を忘れてしまうし、この所の自然災害の多さに中越地震の事もかなたの事として忘れがちだが、復旧工事は今始まったばかり。まだまだ長い年月かかる事でしょう。地震はまだあちこちで起こっているし、一度ゆるんだ土地はちょっとした地震、大雨でくずれてしまうので最新の工法でしっかりと安心出来る工事をしてほしいと思う。
- ・ 今回見学した所が山間地の為か復旧に時間が掛かり住民は不便を強いられ大変だと思った。私の住む十日町市でも大雨大雪で二次災害が発生した。できるだけ早い復旧復興を望む。



意見交換会の様子

## 砂防イベントの企画案について意見交換

湯沢砂防では、これまでの広報活動を見直し、より良いものに改善すべく女性モニターの皆さんにご協力をお願いしていました。今回、10月1日に開催したバスペインティングを主体とした親子イベントについてご意見を頂き、プログラムづくりに反映させました。

- \* イベント内容：バスペインティング、砂防教室、石ころアート
- \* 実施日：10月1日(土)
- \* 開催場所：登川河川公園



10月1日に実施したバスペインティングの様子

### \*\* 女性モニターより \*\*

- ・ バスペイント等、楽しい企画になると良いと思う。砂防って何?という大人も多いと思う。8月に行われた上田ふれあい祭りで湯沢砂防さんが行っていた、模型堰堤を使った実験を知人と見た。とても興味深そうだった。実験装置は大人も興味をもてると思う。そもそも、参加をする大人も子供も、どうして川の整備が必要なのか等を考えたことは、あまりないと思うので(堰堤がどうしてつくられているとか)川を守る意味と砂防事業の大切さを織り交ぜたイベントを企画してほしいと思う。
- ・ 子供中心の行事なので長時間の説明は避けた方がいいと思う。実験や説明は多くの人が見やすくする工夫が必要。
- ・ 一台のバスに絵を書く事によって一つのメッセージを伝えたいのなら、テーマを設定すべきだと思う。
- ・ 小学生対象のとってもいい企画だと思った。バスのペイントはよろこぶし、あと公園の塀や公共建物の一部にペイントしてもらってもいいと思った。
- ・ 川の怖さはもっと教えるべき。



意見交換会では、女性モニターの皆さんから活発な意見を頂きました。

### 湯沢砂防より

今回のモニターでは2ヶ所の見学を通じて、そこに暮らす人々の苦勞、砂防の必要性などを感じて頂けたことと思います。湯沢砂防ではこれからも地域づくりに資する砂防事業を進めていきます。

また、親子イベントについては、モニターの皆さんから頂いたご意見を反映させて、参加者の方々に満足して頂けるイベントになったと思います。次回はその報告を予定しています。

### 平成17年度

#### 女性モニタースケジュール

第5回	10/5(水)	現地見学会ほか
第6回	10/15(土)	第3回魚沼自然塾
第7回	11月上旬	現地見学会
第8回	12月初旬	意見交換会
第9回	12/17(土)	第4回魚沼自然塾

### お問い合わせは

949-6102 南魚沼郡湯沢町大字神立23

国土交通省 湯沢砂防事務所 調査課(025-784-2073)まで